

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 5 月 30 日現在

機関番号：34504

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2016

課題番号：24520252

研究課題名(和文) 地方談林俳諧文化圏の発展と消長～西鶴の諸国話的方法との関係から～

研究課題名(英文) Rise and Fall of the Provincial Danrin Haikai Culture: from a Viewpoint Ihara Saikaku's Ukiyozoushi

研究代表者

森田 雅也 (MORITA, Masaya)

関西学院大学・文学部・教授

研究者番号：10239668

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：日本文学史において、談林俳諧と呼ばれる俳諧の流派は延宝期(1673～1681)を中心に前後十余年間、俳壇の主流を占めたにもかかわらず、松尾芭蕉(1644～1694)が台頭することで瞬く間に消滅した。しかし、その全盛期、地方談林俳諧の人々は流通網を利用して俳諧文化圏を形成し、文化情報を都市部に発信していた。その実態を当時の経済繁栄の中心都市「大坂」で活躍していた談林俳諧師井原西鶴(1642～1693)が諸国話的方法を用いた浮世草子(短編小説群)との関係から研究調査した。

研究成果の概要(英文)：In Japanese literature history, a haikai school called Danrin Haikai was the mainstream of the haikai world for over ten years around the Enpo era (1673～1681) but then instantly vanished with the appearance of Matsuo Basho (1644～1694). However, at the height of its power, the provincial Danrin Haikai people had formed a culture zone by means of a distribution network, transmitting cultural information to the urban areas. This research investigates this fact from a viewpoint of Ukiyozoushi (compilation of stories from various regions in Japan), written by Ihara Saikaku(1642～1693) who played an active role as master of Danrin Haikai in Osaka, the center of economic prosperity at that time.

研究分野：日本近世文学

キーワード：西鶴 談林俳諧 浮世草子 上方文壇 地方俳諧文化圏 海川流通網 西廻り航路 文化情報の発信

## 1. 研究開始当初の背景

(1)研究代表者は大学院在学中より西鶴研究を行い、学会発表、論文発表等を重ね、2005年3月に博士論文「西鶴文芸史の研究 受容理論を基底とした分析」を発表し、博士(文学)の学位を取得している。その成果は単著『西鶴浮世草子の展開』(2006,455,和泉書院)として出版し、その後も西鶴研究会、日本近世文学学会、俳文学会など多くの学会で研究発表、論文発表等を行うとともに著書を出すなど、西鶴研究については知見を有していた。

(2)俳諧については、文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業学術フロンティア推進授業「関西圏の人間文化についての総合的研究」(2004~2008,武庫川女子大学)において俳諧部門のリーダーを務め、西鶴を中心とした関西俳諧文化圏と地方俳諧文化圏の結びつきについて改めて精査した。その後も大阪俳文学研究会などにおいて、地方俳諧文化圏について研究していた。

(3)所属先大学の付属図書館には、江戸時代の河川・西廻り航路等による米・酒の流通機構についての研究者の第一人者であり、本学教授、学長を務め、学士院賞受賞者である故柚木学博士の著書、蔵書、研究資料等が収蔵されており、「文学」とは異なる研究分野であったが研究環境は整っていた。

## 2. 研究の目的

日本近世期における談林俳諧は、延宝期を中心に前後十余年間、俳壇の主流を占めたにもかかわらず、田代松意一派などの江戸談林、西山宗因を中心とした西鶴・岡西惟中等の大坂談林、「惣本寺」と称した高政を中心とした京都談林などは知られているが、「西は長崎、東は仙台を限りてこの道の好土耳を洗はぬと言ふことなし」(野口在色『俳諧解脱抄』)と言われるように全国に点在する地方談林俳諧の実態は不明な点が多い。本研究は大坂談林の雄、井原西鶴の浮世草子の諸国話形式に着目し、その情報源に地方談林俳諧文化圏が関係していることを検証し、談林俳諧発展の拠点であった大坂談林と地方談林俳諧文化圏との交流の実態を解明することを目的とした。

## 3. 研究の方法

西鶴浮世草子の題材となっている地方文化圏の中で、俳諧が盛んであった地域をリストアップし、俳諧史、地方史、経済史等の関係文献からその実態を分析すると同時に、新資料を発掘するために現地の研究調査も行った。現地では郷土資料館等公共保存機関を中心に資料収集を行うとともに、旧家、寺社などの調査も行った。すでに現物資料がマイクロフィルム化、電子化等されている場合、東京等の公的複写保存機関からの収集を行

い、新資料の翻刻なども論文公表し、資料の汎用性に努めた。成果は随時、学術誌、学会等で発表した。さらに掲載許可が出たすべての調査資料や研究成果を随時PDF化し、森田のホームページを通しWEB上で公開し、研究期間終了後も学界に発信を行っていく。

## 4. 研究成果

(1)本研究の骨子の一つは西鶴浮世草子に見える諸国話と大坂談林俳諧の旗手でもあった西鶴と地方談林俳諧、俳諧文化圏の関係を精査するところにある。そのため、文献調査にあたっては江戸時代前期の地方文学文化圏の基礎調査が必要となり、ここまで実地調査を中心に研究に取り組んで来た。以下年度ごとの調査進捗状況を上げる。

平成24年度は福井・三国・敦賀談林俳諧文化圏の基礎調査(4.20~21)、韓国所蔵俳諧関係文献資料調査(7.22~25)、和歌山談林俳諧文化圏の基礎調査(8.27~28)、九州北部談林俳諧文化圏(日田・福岡)の基礎調査(10.25~28)、東京公共機関での文献調査(2.16~18)、大津談林俳諧文化圏の基礎調査(2.25)、九州中部(熊本・八代)談林俳諧文化圏の基礎調査(3.4~6)、三重・尾張談林俳諧文化圏の基礎調査(3.22~24)を行った。平成25年度は松前・函館等北方談林俳諧文化圏の資料調査(7.28~8.1)、高野山における俳諧文化圏調査(8.6~7)、但馬俳諧談林文化圏(出石)の基礎調査(8.31~9.1)、尾張・伊勢談林俳諧文化圏の資料調査(9.27~28, 11.14~17)を行った。平成26年度は山形・酒田・尾花沢を中心とする西東北地方の談林文化圏の実地調査(5.7~10)、国立台湾大学を中心とした台湾所蔵俳諧関係和本調査(6.5~7)、愛媛を中心とした北四国談林俳諧の調査(6.27~29)を実施した。また、これらと並行して森田を実行委員長として関西学院大学において、第66回俳文学会全国大会を開催し、同大学図書館展示「西鶴と談林俳諧」を監修した。ここでは未公開談林俳諧資料の史的価値を書誌解題したことから、学会内外より全国の談林俳諧資料に関する情報が一気に寄せられ、研究の視野が大いに広がった。平成27年度は岐阜談林俳諧文化圏(岐阜・大垣・関ヶ原)の調査(5.21~22, 6.13~15)、象潟周辺談林俳諧文化圏(秋田由利本荘市・にかほ市)の調査(9.18~20)を行った。最終年度の平成28年度は本研究の集大成として、「俳諧師西鶴と上方文化」(誓願寺本堂,「西鶴忌」実行委員会,9.11)と題して講演し、第44回西鶴研究会(於青山学院大学 2017.3.27)においては、「西鶴の諸国話の手法と地方談林俳諧」と題して90分に及ぶ時間を与えられて研究発表を行った。質疑応答においては諸氏から様々な意見が出たが、西鶴の情報源としての地方談林俳諧文化圏の存在については、先学も含めて誰もが漠然とは想像していたが、手法として論証されたことは初めてで

あると評価された。ただ、相互の関係によって典拠が決定的といえる作品は少なく、なお、研究を続けるべきであるとの指摘もなされた。情報源としてその担い手の多くは地方物流拠点ともいえる海川流通機構を牛耳る新興商人であり、各々の地方に俳諧文化圏、特に談林俳諧文化圏ともいえる独特の俳壇を形成していたことは論証されつつあるが、彼らと大坂、京都、江戸の都市俳壇との関係、新興商人だけでなく、武士階級、大名家との関係など総論だけではなく、各論に還元して、さらなる個別の論証も必要であるとの指摘も受けた。しかし、それらの点については研究期間内にすでに繰り返し論じており、結論を得ている。

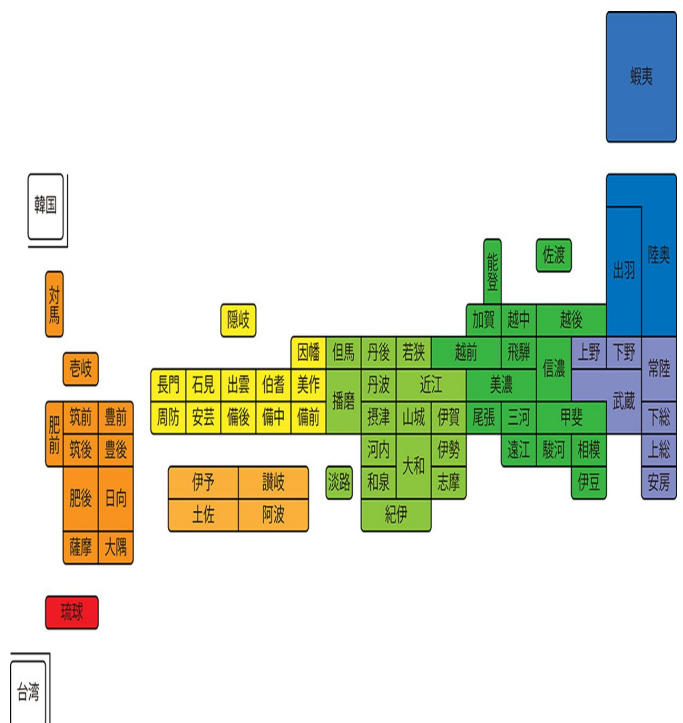
日本近世文学史において、特に延宝期(1673~81)前後十余年間における談林俳諧は、それまでの松永貞徳による連歌式目から発展した貞門俳諧に代わり、急速に俳壇の主流となった。その担い手の多くは地方物流拠点ともいえる海川流通機構を牛耳る新興商人であり、各々の地方に俳諧文化圏ともいえる独特の俳壇を形成した。彼らは陸路も用いたが当時の流通網である西廻り航路などの大坂廻米ルートを利用して、大坂、京都、江戸を往来し、俳諧師同士の交流を深めていった。特に大坂談林の雄、井原西鶴と地方談林俳諧文化圏との結びつきは強く、その人的交流は自ずと俳諧に限らず、文学の情報源としての役割をも担うようになった。その膨大な文学素材を基底として成立したのが西鶴の諸国話形式による浮世草子作品群であった。その方法は好色物、武家者、町人物、雑話物、遺稿集すべてに及んでいる。

特に『西鶴諸国ばなし』(1685年刊)、『武道伝来記』(副題「諸国敵討」)(1687年刊)の数話は、情報提供者としての実在の地方俳人が見え隠れしている。彼らは談林俳諧師として西鶴と親交があり、『西鶴大矢数』などにも連衆として参加していたことなどが判明した。例えば、九州日田の西国、岐阜の木因、尾花沢の清風などである。さらに江戸の調和、奈良の言水らを介したのが、四国伊予の江嶋山水、兵庫豊岡の京極高住(俳名・駒角)九州黒田藩などの武士階級をも情報提供者として加えていく。したがって、西鶴は地方談林俳諧の担い手たちから得た情報によって諸国話という短編小説を生み出したと考えられるが、その返礼として情報源を匂わすメッセージを送っている。これこそ俳諧の手法「挨拶」ではあるまいか。しかし、その地方俳諧圏ネットワークとの文化交流は芭蕉の『奥の細道』の旅(1689年)によって瓦解していく。それは談林俳諧の終焉であり、蕉風俳諧の確立期と軌を一にしているのである。これこそが研究題目「地方談林俳諧文化圏の発展と消長」としての結論であり、副題「西鶴の諸国話的方法との関係から」解き明かした結果なのである。

それらの研究成果の公表については、当初

の予定通り、紙媒体ではなくWEB上での公開を行った。森田にとっては初めての試みであったため、業者に全面的な技術的協力を得、【資料1】の江戸時代談林俳諧隆盛当時の日本地図を作成し、江戸時代の旧国名を付し、関係論文、関係談林俳諧、関係西鶴諸国話にリンクできるようにした。また、そこに研究期間内に『大阪日日新聞』に毎週連載し、ちょうど100回掲載となった『難波西鶴と海之道』をPDF化し、各地方にリンクさせた。これは専門的知識のない方々にも広く、西鶴諸国話の内容を知らせ、研究成果の汎用性をあげることが目的としている。試みとして研究最終年度にあたる平成28年度には、7月5日に兵庫県立のじぎく会館で開催された兵庫県高等教育研究会国語部会での講演(森田単独)、9月11日に大阪誓願寺で開催された西鶴忌講演(森田単独)、11月6日に西宮瀬川美術館で開催された講演(森田単独)において作成途中のホームページを使用し、その利便性、汎用度確かめたが、公開上の問題点もみつきり、改善にも役立った。

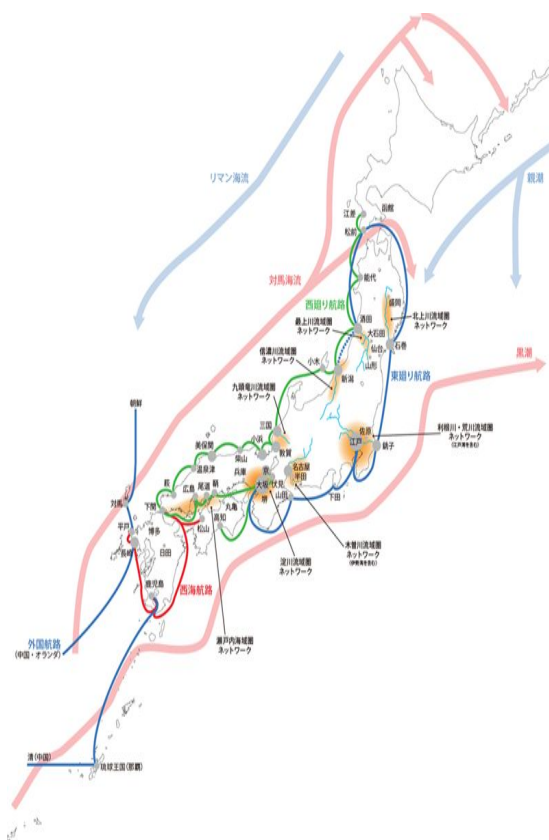
#### 【資料1】



(2)都市俳壇と地方俳壇との結びつきという点では、三都(大坂、京都、江戸)文化圏と地方文化圏を結びつける手段として発達していた物流流通網についても注目し、研究を広げた。特に当時の廻米制度のために発達した河川(湖上も含む)流通、西廻り航路の研究は奥の深さを感じたが、研究期間内に発足した学内共同研究「島国と海洋文化研究センター」(センター長は森田)の実地調査を利用して研究調査を行うことができた。平成24年度は沖縄、平成25年度は長崎・五島諸島、

平成 26 年度は対馬、平成 27 年度は福山・今治大三島・尾道因島の俳諧調査とともに物流網、帆船である船舶を運ぶための潮流と風向きの研究実地調査ができた。これらの研究は各年度の研究業績として報告しているように単著論文、共著著作、研究発表、講演等を通し公開され、順調に成果をあげるとともに海外の研究者からも注目され、韓国・済州大学校、台湾・輔仁大学、同中山大学の研究機関などから招待され講演、研究会を行う機会を得た。また、アジア・太平洋海洋文化国際会議(略称 A P O O C・事務局在韩国済州島・代表朱剛博士)においては、平成 24 年度～平成 27 年度にわたり毎年研究講演発表者として招待され、論文なども掲載された。これらで得た知見から、独自の江戸時代の海川流通機構図【資料 2】を作成し、WEB 上で公開し、地方談林俳諧文化圏とリンクさせた。

#### 【資料 2】



それら研究成果は研究最終年度にあたる平成 28 年度「西鶴の海と舟の原風景～『西鶴大矢数』にみる地方談林文化圏の存在～」(篠原進・中嶋隆編『ことばの魔術師西鶴 矢数俳諧再考』, 99-125, ひつじ書房)と題して書籍化され、公刊された。

また、物流文化圏の利用という点においては、海川だけでなく、陸上交通を用いて全国的な広がりがあり、その一旦として、京阪神を中心とした豪農、商人たちの間においての前句付の流行があったとして、その成果を平成 28 年度「言水評点 前句付『俳諧愛宕土

産』の翻刻注釈と研究」(『日本文藝研究』, 第 67 巻 2 号・第 68 巻 1 号合併号, 1-23)で論じた。

(3)それならば、当初の計画以上に進展していると自己評価すべきであるが、地方談林俳諧文化圏の調査として必須ともいべき『奥の細道』の芭蕉等に関係する「福島県・宮城県・岩手県」など太平洋側東北文化圏の実地調査、文献調査の実施をかかると平成 23 年 3 月に起こった大震災関連の影響のため先送りせざるを得なかった。芭蕉の『奥の細道』の旅によって、東北の談林俳諧文化圏は塗り替えられており、そのことは論文として発表したが、さらなる資料調査が求められる。また平成 28 年 4 月には熊本を中心に北・中九州地域が近時激震に見舞われた。談林俳諧の創始者であり、大坂談林俳諧の旗手、西鶴の師であった「西山宗因」の出身地は熊本県「八代」であり、西鶴の談林俳諧の若手随一の直弟子であり、当時の九州談林俳壇の指導的立場にあった「中村西国」の活動中心地は大分県「日田」であった。ともにすでに実地基礎調査を終え、地元教育委員会や寺社関係者の協力をとりつけ、文献調査を残すのみとなっていたが、早急の調査の目処がたたなくなってしまう。不可抗力の諸事情ながら期間内に調査を終えられなかったことは残念な結果として報告せざるを得ない。

ただ、研究成果が WEB 上での公開であるため、紙媒体のように未完の完結で終わるのではなく、今後の研究成果を現地の復興を待ってホームページに加筆できることは幸いである。国文学の研究分野ではまだ珍しい試みであるとは言え、慣れない WEB 上での成果報告のため、利便性、汎用性などにまだ改善の余地があることは確かである。同時にコンピュータを用いた情報発信が日々進化していることを鑑みれば、終わることなく、より充実した研究成果報告となるように努力することを今後の課題として成果報告としたい。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 9 件)

(単著論文)「言水評点 前句付『俳諧愛宕土産』の翻刻注釈と研究」, 森田雅也, 『日本文藝研究』, 第 67 巻 2 号・第 68 巻 1 号合併号, 査読無, 1-23, 2016.8

(単著論文)「第 66 回全国大会の記」, 森田雅也, 『連歌俳諧研究』, 128 巻, 査読有, 60-64, 2015.3

(単著論文)「西鶴と談林俳諧」, 森田雅也, 『日本文藝研究』, 第 66 巻 2 号, 査読無, 107-124, 2015.3

(单著論文)「西鶴『武道伝来記』と村岡騷動」～地方談林俳人への「挨拶」の手法～」, 森田雅也, 『日本文藝学』, 51号, 査読有, 21-27, 2015.3

(单著論文)「『武道伝来記』と江島為信」西鶴からの伊予俳人への挨拶」, 森田雅也, 『俳文学報』, 48巻, 査読有, 1-6, 2014.10

(单著論文)「日本文芸学の検証と爾今への提言」, 森田雅也, 『日本文藝学』, 50号, 査読有, 49-65, 2014.3

(单著論文)「『おくのほそ道』と地方談林俳諧 芭蕉が塗り替えた俳諧勢力文化圏」, 森田雅也, 『人文論究』, 第63巻4号, 査読無, 21-49, 2014.2

(单著論文)「毘沙門格子巻龍文様みる京都書肆の役割～延宝・貞享期の談林俳諧圏との関係～」, 森田雅也, 『俳文学報』, 47巻, 査読有, 44-49, 2013.11

(单著論文)「海が運んできた異文化との遭遇～日本漂流文学の系譜と濟州文化～」, Encounter with Different Cultures Brought by the Sea-Japanese Castaway Literature and Jeju Culture」, 森田雅也, 『官報 濟州特別者指導 文芸編』, 第116号, 査読有, 166-177, 2012.9

〔学会発表〕(計10件)

(研究発表)「西鶴の諸国話の手法と地方談林俳諧」, 森田雅也, 西鶴研究会, 東京都渋谷区・青山学院大学, 2017.3.27

(招待講演)「俳諧師西鶴と上方文化」, 森田雅也, 「西鶴忌」実行委員会, 大阪府大阪市・誓願寺本堂, 2016.9.11

(招待講演)「いやあ、西鶴はんって面白いお方ですなあ～現代の高校生に伝えたい浮世草子の魅力～」, 森田雅也, 兵庫県高等教育研究会国語部会, 兵庫県神戸市・兵庫県立のじぎく会館, 2016.7.5

(研究発表)「17・18世紀日本における漂流文学の研究～島国日本と鎖国政策について～」, 森田雅也, The 3rd Asia Pacific ocean and culture conference, 韓国ソウル市・大韓民国商工会議所, 2015.11.6

(招待講演)「江戸時代における上方と北海道文化圏の交流～西鶴文学と海と俳諧と～」, 森田雅也, 北海道教育大学釧路校国語科教育研究会・釧路国語教育学会共催, 北海道釧路市・北海道教育大学釧路校, 2015.10.31

(招待講演)「芭蕉、木因、そして西鶴」,

森田雅也, 岐阜県大垣市・奥の細道むすびの地記念館, 2015.6.14

(研究発表)「『挨拶』としての『武道伝来記』の成立 - 西鶴と四国談林俳諧文化圏との交流 - 」, 森田雅也, 日本文藝学会, 香川県善通寺市・四国学院大学, 2014.6.29

(研究発表)「江島為信と『武道伝来記』四国談林俳諧と西鶴の交流」, 森田雅也, 愛媛近世文学研究会, 愛媛県松山市・愛媛大学法文学部本館, 2014.6.28

(シンポジウム発題)「『繋ぎ地巻龍文様』みる京都書肆の役割～延宝・貞享期の談林俳諧圏との関係～」, 森田雅也, 大阪俳文学研究会, 兵庫県伊丹市・柿衛文庫, 2012.11.18.

(招待講演)「海が運んできた異文化との遭遇～日本漂流文学の系譜と濟州文化～」, 森田雅也, 耽羅大典国際学術会議, 韓国濟州市・濟州商工会議所, 2012.9.14

〔図書〕(計5件)

(共著図書), 長谷川強監修『浮世草子事典』, 森田雅也, 11項目担当全ページ数未定, 笠間書院, 2017.12 刊行予定

(共著図書), 森田雅也監修『古川柳入門』, 森田雅也, 吉田健剛, 全ページ数未定, 関西学院大学出版会, 2017.9 刊行予定

(共著図書)「西鶴の海と舟の原風景～『西鶴大矢数』みる地方談林文化圏の存在～」, 森田雅也・篠原進・中嶋隆編『ことばの魔術師西鶴 矢数俳諧再考』, 森田雅也, (総ページ数406内, 99-125), ひつじ書房, 2016.11

(単編著図書)『島国文化と異文化遭遇～海洋世界が育んだ孤立と共生～』, 森田雅也編著, (総ページ数254内, 3-4, 9-30, 197-247), 関西学院大学出版会, 2015.3

(共著図書)「『笈の小文』に描かれた名所旧跡をたずねて」, 森田雅也・吉田健剛, 協和印刷, 総ページ20, 監修, 2014.9

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
出願年月日:  
国内外の別:

取得状況（計0件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等  
<http://saikaku48.jp/>

6．研究組織

(1)研究代表者

森田 雅也（MORITA,Masaya）

関西学院大学・文学部・教授

研究者番号：10239668

(2)研究分担者

（ ）

研究者番号：

(3)連携研究者

（ ）

研究者番号：

(4)研究協力者

（ ）